

ところざわ倶楽部

野老澤の歴史をたのしむ会

活動報告「川越仙波古墳巡り」

令和7年(2025)年5月15日 中村静子 記

■実施日 令和7年(2025)5月15日(木)曇り、最高気温23℃

■参加者 28名 2班に分かれて散策

■案内人 川越シルバーガイド 斎藤祐一様 荒井邦雄様

■コース概要 本川越駅集合9:20

浅間神社古墳⇒愛宕神社古墳⇒仙波氷川神社古墳⇒長徳寺⇒三変稲荷神社古墳

⇒日枝神社古墳⇒慈眼堂古墳(喜多院)

■歩行距離 約6キロ 所要時間約3時間

散策の目的

川越は今や「小江戸」、「蔵造りの街」として埼玉県の中でも人気の観光地である。今回は古代に目を移し、古墳群と仙波氏の屋敷跡長徳寺という、いつもとは一味違う散策路を巡る。

川越市は武蔵野台地の東北端に位置しており、古代に目を向けてみると、縄文海進によって市域まで古入間湾が広がり、7000年前は国道16号の東南側は海であった。仙波台地や新河岸台地には小仙波貝塚を代表とする遺跡が密集している。古墳時代になると湿地帯が広がり、水が豊富な地域となり、稲作が始まると力を持った豪族の古墳が次々と形成され、4世紀後半に造営された三変稲荷神社古墳を筆頭に、6世紀前半に「仙波古墳巡群」が形成された。

浅間神社古墳(母塚・川越市指定史跡)

【墳形】円墳

【規模】経東西35.5m、南北38m
高さ5.75m

【年代】6世紀中頃

【状態】ほぼ完存

【発掘品】埴輪、ガラス玉

浅間神社は平安時代の1060年頃の創建。本殿前の社殿の天井画は江野椽雪(えの



ばいせつ)により百人一首の絵が描かれた折上天井。(江野栞雪は天保年間から、明治初期に活躍した狩野派の流れをくむ絵師)

本殿は富士山の溶岩で囲われており、猿神の使い二体がお守りしている。

太田道灌が整備したが、関東大震災で大きな被害を被っている。

愛宕神社古墳(父塚・川越市指定史跡)

【墳形】円墳、二段築成

【規模】経東西 42m、南北 45m、高さ 6m

【年代】6 世紀中頃

【状態】ほぼ完存

【発掘品】埴輪

敷地内に松尾芭蕉の歌碑がある。

「蓬萊に聞かばや伊勢の初便り」「名月に麓の霧や田の曇り」

芭蕉は川越を訪れた事はないが、川越は俳句が盛んだったため、伊賀で詠んだこの句を、この地の景色に見立てたりして句碑を建てたとのこと。浅間神社古墳同様、関東大震災で大きな被害を被っている。

敷地内には元文元年に建てられた延命地蔵もある。延命地蔵までは、二段築成の段の部分歩いて行き、この古墳の特異な姿が良く確認できる。



仙波氷川神社古墳

【墳形】円墳

【規模】直経 15m、高さ 2m

【年代】不明

【状態】ほぼ完存

【発掘品】円筒埴輪、人型埴輪、ヒジキ、須恵器

氷川神社は川越に 7 つある。氷川神社の社名の由来は、出雲の斐伊川にちなむ説と霊験あらたかな泉を表すという説がある。武蔵国一宮の氷川神社を中心に、須佐之男命など出雲の神々を祀る神社を指す。

仙波二郎安家は源頼朝の家来。敷地内には川越祭りの折に、引き廻す山車が保管されている。仙波など“波、のつく名前が多いが、これは昔海だったからとも言われて

いる。

長徳寺

慈覚大師が開いた天台宗喜多院の末寺。840年から850年頃に創建された、仙波氏の屋敷跡。

川越観音堂の道路側に馬頭観音、庚申信仰の主尊である青面金剛如来、サムハラの様が祀られている。(サムハラのお守りを持つと兵士に弾が当たらない「身を守る」御利益があると言われている)

三変稲荷神社古墳(川越市指定史跡)

【墳形】方墳

【規模】東辺 25m、西辺 25m、南辺 23m、北辺 23m、高さ 2.5m

【年代】4世紀後半

【状態】半壊

【発掘品】^{だりゅうきょう}鼉龍鏡(鼉龍とは、鰐に似た中国の想像上の生き物、鏡は大和朝廷に仕えた人に配られたものと言われている)、剣、勾玉、ヒジキ、埴輪

昭和60年に発掘調査が行われた。周囲は堀を巡らせていた。

神社の名前の由来は、この土地はもともと不浄の地であったが、三回お祓いをして縁起の良い場所に代わったとのこと。ご神木は樹齢300年の棕の木。近くの第一中学校の校庭からも遺跡が出ている。

日枝神社古墳(多宝塔古墳)

【墳形】前方後円墳

【規模】不明

【年代】6世紀中頃

【状態】全壊に近い

大正13年の川越大宮県道工事で、古墳のほとんど全部が壊されてしまう。現在は前方部分が残るのみ。工事後、日枝神社が移転したので、日枝神社古墳と言われるようになったが、それ以前は多宝塔が墳墓の上に立っていたので、多宝塔古墳と呼ばれていた。

喜多院慈眼堂古墳

【墳形】前方後円墳

【規模】全長 45m、5.4m、

【年代】7世紀初頭

【状態】半壊

墳丘には天海を祀る国指定重要文化財慈眼堂と喜多院歴代住職墓所がある。
天海は天台宗の大僧正。徳川家康の側近として、江戸幕府初期の朝廷政策、宗教政策に深く関与した。



担当B班 清水とも子、戸田チイ子、中村静子